

令和4年3月29日開催

## 令和3年度第2回上越市博物館協議会資料 (歴史博物館)

- (1) 令和4年度事業計画(案)について【資料1】 . . . . . 1～3頁
- (2) スキー資料整理事業について【資料2】 . . . . . 4～6頁

## 上越市立歴史博物館 令和 4 年度事業計画（案）について

## 1 展覧会事業

展覧会名	会 期	内 容	目標 入館者数
《逸品展示》 御所参内・聚楽第行幸 図屏風	3/26（土） ～6/12（日） （65 日間） ※観桜会・GW 期 間中は無休	天正 16 年（1588）、天下人となった豊臣秀吉は聚楽第に後陽成天皇を迎えるため、御所に参内した。この日の様子を描いた「御所参内・聚楽第行幸図屏風」を 3 年ぶりに当館で公開する。	29,000 人
《企画展Ⅰ》 森成麟造—上越考古学 の先覚者—	7/2（土） ～8/28（日） （55 日間） ※観蓮会期間中は 無休	安塚区真萩平に生まれた森成麟造 <sup>りんぞう</sup> は、仙台医学専門学校（現・東北大学医学部）で医学を学び、東京の長与胃腸病院勤務を経て、明治 44 年（1911）に高田で開院した。医業の傍らで遺跡調査、資料収集に取り組み、上越地域の歴史研究に大きな業績を残した。また、夏目漱石の主治医を務めたこともあり、俳句などの文化活動にも熱心であった。本展では、森成麟造の生涯と上越の考古学研究における業績を森成家所蔵資料や市内に残る資料から紹介する。	13,200 人
《企画展Ⅱ》 文化財指定記念 日本スキーの黎明	9/17（土） ～12/4（日） （66 日間）	「日本スキー発祥の地」である上越市は、レルヒ少佐によるスキー指導以来のスキー用具やスキー製作の道具、文献など、日本スキー黎明期における資料群を所蔵している。本展では、令和 3 年度に市文化財に指定された「日本スキー関係資料」を中心に、日本スキーのはじまりからスキー産業化・スキーの全国的普及という、黎明期の日本スキー界をけん引した上越の役割を紹介する。	12,000 人
《企画展Ⅲ》 探検！むかしの暮らし	1/4（水） ～3/12（日） （58 日間）	小学校 3 年生のカリキュラムに対応した民具展示。昭和初期から昭和 40 年代までの暮らしを豊富な民俗資料で紹介する。	8,500 人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・開館日数：321 日</li> <li>・常設展示の展示替えを年 4 回程度実施する。</li> <li>・目標入館者数は 70,000 人（企画展開催期間：62,700 人、常設展のみの期間：7,300 人）。</li> <li>・目標満足度を 80%とする。（満足度は「満足」「やや満足」「やや不満足」「不満足」の項目から「満足」「やや満足」と回答した人の割合）</li> </ul>			

## 2 教育普及事業

### (1) 展示解説会等の実施

展覧会名	日時 (予定)
《企画展Ⅰ》 森成麟造—上越考古学の先覚者—	7/23 (土)、8/7 (日) 時間はいずれも午前 11 時～
《企画展Ⅱ》 文化財指定記念 日本スキーの黎明	10/8 (土)、11/20 (日) 時間はいずれも午前 11 時～
《企画展Ⅲ》 探検！むかしのくらし	小学校の希望に応じて実施
岡沢拠点収蔵施設 一般公開	ゴールデンウィーク、夏休み期間中に実施 5/4 (祝・水)、8/13 (土)、8/14 (日) の予定

※新型コロナウイルス感染症の状況によって実施中止の場合あり。

※このほかに団体等で依頼があった場合、随時展示解説を行う。

※年間を通じて、土日祝日、観桜会期間、観蓮会期間について展示解説員を配置する。

### (2) 刊行物の発行

刊行物名	内 容
企画展『森成麟造—上越考古学の先覚者—』 パンフレット	企画展パンフレットとして作成 (規格：A4 判・24 頁、印刷部数：1,000 部、頒布 価格：税込 400 円)
『日本スキーの黎明—上越市文化財指定 「日本スキー関係資料」 目録・研究—』	令和 3 年度に上越市文化財に指定された「日本スキー 関係資料」(297 点) を詳細に紹介する解題・資料目録 と価値をまとめた研究編を加える。 (規格：A4 判・64 頁、印刷部数：1,000 部、頒布価 格：税込 600 円)
『探検！むかしのくらし』探検ブック	小学 3 年生の社会科学習にあわせた子供向けワーク シートを作成、来館する小学 3 年生に無償配布。 (規格：A4 判・16 頁、印刷部数：2,000 部)
『年報・研究紀要 (デジタル版)』	令和 3 年度事業をまとめた年報と研究紀要を発行す る。紙ベースの印刷は行わず、データをホームペー ジで公開する。

### (3) 博物館実習の受入れ (小林古径記念美術館との共同事業)

実習期間	内 容
8月上旬を予定	講義：「資料の保存と管理」「展示論」など 実習：「資料の取扱い」「資料の整理」「資料台帳作成について」など ※受講条件は、市内出身者もしくは県内の大学に通う博物館学芸員を志望する学生

### (4) 中学生職場体験の受入れ

上越市「ゆめ」チャレンジ事業（上越市教育委員会、上越市キャリア・スタート・ウィーク実行委員会主催）に協力し、市内中学生の職場体験を行う。

（令和2、3年度は新型コロナウイルスの影響により中止）

### (5) 出前講座・職員派遣等

団体等から依頼があった場合、出前講座や職員派遣を行う。

### (6) 人権・同和問題研修の実施

教育委員会学校教育課と連携し、小中学校および教育委員会職員対象（学校管理職、人権教育担当教諭、市教育委員会職員、上越教育事務所職員）の研修会を行う。

## 3 調査研究事業

- ・日本スキー発祥記念館の収蔵資料整理作業・調査研究（令和6年度までの継続事業）
- ・令和4年度企画展「森成麟造展」開催にかかる調査研究
- ・令和4年度企画展「日本スキーの黎明展」開催にかかる調査研究
- ・令和5年度企画展予定「頸城油田の盛衰展（仮称）」開催にかかる調査研究
- ・令和5年度企画展予定「高田盲学校展（仮称）」開催にかかる調査研究
- ・榊原家史料に関する調査研究

## スキー資料整理事業について

### 1 事業概要

日本スキー発祥記念館には、明治44年（1911）のレルヒ少佐による日本で初めての本格的なスキー指導以来、陸軍第13師団高田偕行社に収蔵されたスキー資料をはじめ、スキー用具やスキー製作の道具、スキーの文献や文書など、日本スキー黎明期における日本で唯一の資料群を所蔵している。施設は平成28年度に歴史博物館に移管されたが、収蔵資料は台帳もなく未整理のままであった。

このため、スキー資料の整理作業を行い、収蔵する資料群の全体像を把握するとともに、日本スキー史や産業史など日本近代史における資料的価値や評価を明らかにする調査研究に取り組む。本事業で明らかになった事柄は、歴史博物館の企画展として紹介するとともに、日本スキー発祥記念館の展示に反映する。また、収蔵資料の目録を作成・刊行することにより、今後のさらなる研究発展を進めることを目指す。

#### ○日本スキー発祥記念館の概要

日本スキー発祥80周年記念事業として、レルヒ少佐の顕彰と市民文化の向上及び観光振興を図るため、金谷山に記念館を建設し、スキー発祥から普及・発展に関する資料を収蔵・展示している。

- ・開館：平成4年4月28日（平成9年度に増築）
- ・位置：上越市大貫2丁目18番37号
- ・面積：敷地面積 1131.88 m<sup>2</sup>（342.9 坪）／建築面積 353.31 m<sup>2</sup>（107.1 坪）
- ・構造：鉄骨コンクリート造・一部鉄骨造（屋根組）・3階建
- ・入館料：一般460円（310円）／小中高生160円（100円）

※（ ）は20人以上の団体料金

### 2 事業スケジュール

令和3年度～令和6年度

- ・日本スキー発祥110年の節目を迎えた令和3年度に、黎明期の日本スキー資料297点の整理作業を実施。この資料群は、令和3年10月25日に上越市文化財に指定された。
- ・令和4年度には文化財指定のスキー資料について、その評価・価値を発信するため『日本スキー関係資料目録・研究』を刊行する予定。併せて、歴史博物館で企画展「文化財指定記念 日本スキーの黎明」を開催し、貴重なスキー資料を一堂に公開し、日本スキー発祥の歴史を紹介する（会期は令和4年9月17日（土）～12月4日（日））。歴史博物館の企画展終了後、日本スキー発祥記念館においても随時展示更新を行う。

- 引き続き、令和4年度から令和6年度にかけて、日本スキー発祥記念館の収蔵資料約4,500点の整理作業を進め、収蔵資料の全体像を明らかにするとともに、資料の保存管理を適切に行うよう努める。資料整理はクリーニング・採寸・写真撮影・台帳作成を行い、台帳情報をデータベース化する。将来的には蓄積されたデータを公開する予定。

事業内容	R3	R4	R5	R6
スキー資料整理（約4,500点） （資料整理→台帳作成→データベース化）	—————→			
・黎明期のスキー資料（297点）	————→			
・スキー板（約700点）		————→		
・文献・文書・写真（約2,700点）			————→	
・スキー金具（約200点）			————→	
・ストック、スキー靴等（約530点）				————→
・オリンピック関係（150点）				————→
・その他（映像・絵画等）（約200点）				————→
スキー資料の調査・分析	—————→			
『日本スキー関係資料目録・研究』刊行	準備	→ ○		
歴史博物館企画展「文化財指定記念 日本スキーの黎明」開催（R4/9/17～12/4）	準備	→ ○		
日本スキー発祥記念館展示替え		随時更新	—————→	—————→

### 3 今後の課題

- スキー記念館は平成4年度に開館、平成9年度に増築されたが、スキー用具と技術の変遷を紹介する歴史ゾーンやレルヒ少佐の書斎を再現した記念ゾーンなど固定の展示が多いため、資料の入れ替えが難しく、長年にわたり展示された資料は劣化が進んでいる。開館から30年、増築から25年が経過し、展示情報もかなり古くなってきているため展示内容を更新する必要がある。
- また、収蔵庫やバックヤードがないため、展示ボード裏の狭小なスペースに資料を保管しているが、高温多湿な状態になることもあり、適切な資料管理が難しい。
- 一方で、令和3年度に「日本スキー関係資料」297点が市文化財に指定されたこともあり、資料寄贈申込みも増加しており、収蔵スペースの確保が課題となっている。
- 今後、資料整理が進むことでスキー資料の価値や評価が高まることが考えられ、その情報をいかに展示に反映し、一般公開できるかが課題となる。
- 大幅な展示リニューアルには予算も時間もかかることから、令和5年度を目途にスキー板の収蔵ラックを設置し、資料を収蔵しながら展示も兼ねる「見せる収蔵展示」を行いたいと考えている。

#### 4 その他

- ・民俗資料整理事業は、平成 28 年度以降に寄贈された民俗資料が未整理のままであるが、岡沢拠点収蔵施設における一元管理体制が整い事業に区切りがついたこと、当面の間はスキー資料整理に時間と人手が必要なことから、スキー資料整理が終了するまでの間は、岡沢拠点収蔵施設の維持管理を中心に行う。
- ・岡沢拠点収蔵施設には、国指定重要有形民俗文化財「どぶね」など貴重な資料も保管されていることから、市民の目に触れる機会を広げるため、令和 3 年度から収蔵施設の一般公開日を設けている。初年度は好評を博したため、令和 4 年度以降も継続し、ゴールデンウィークや夏休み期間に一般公開を行う。